

京都・千代川遺跡

1 所在地 京都府亀岡市千代川町

2 調査期間 一九八七年(昭62)五月～一九八八年二月

3 発掘機関 勅京都府埋蔵文化財調査研究センター

4 調査担当者 森下 衛・鶴島三壽

5 遺跡の種類 集落跡・官衙跡

6 遺跡の年代 縄文時代～一四世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

千代川遺跡は、亀岡盆地北西部の行者山北東麓に位置している。

この地に国道九号バイパスが建設されることになり、一九八〇年度

に京都府教育委員会が、一

九八一年度以降は勅京都府

埋蔵文化財調査研究センタ

ーが引き継いで当該遺跡の

調査を実施している。

これまでの調査の結果、

各時代の建物や溝等の遺構

のほか、遺物も多数出土し、

少なくとも縄文時代後期か



(京都西北部)

ら鎌倉時代にかけて非常に長期間にわたって存続した集落跡であることが確認されている。また、千代川遺跡の北半部には、「国司牧」「学堂」といった小字名が残っていることから、丹波国府の比定地にもなっている。一九八七年度の調査地は、国府推定域の西辺部にあたることから、丹波国府関連遺構の存在が予想された。

調査の結果、奈良・平安時代の掘立柱建物三棟・溝二条・井戸一基・鎌倉時代の掘立柱建物四棟、その他時期は不詳であるが、自然流路二条を検出している。木簡は、この自然流路から出土した。この流路から出土した遺物には、鎌倉時代のものが比較的多く、木簡の示す年代とは相違する。

このほか、文字資料として、井戸から「吉」「大□」といった墨書土器が五点出土している。また、過去一二次に及ぶ調査では、木簡と同時期と思われる「福敷」「平貴」と書かれた墨書土器が出土している。

8 木簡の積文・内容

(1) 「〳〵承和七年三月廿五日」

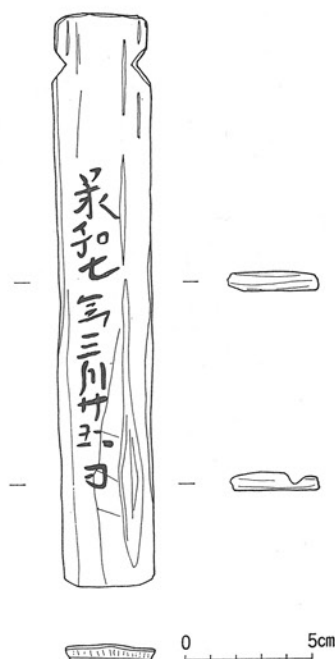
22.5×3.7×6 002

比較的大きめの材を用いてつくられている。裏面は削られた痕跡が明瞭に残っており、かつては文字が書かれていたと思われるが、墨痕を確認することはできなかった。

9 関係文献

鵜島三壽「千代川遺跡 第13次」(勸京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府埋蔵文化財情報』第二八号 一九八八年)

(土橋 誠)



京都・矢谷^{やだに}遺跡

- 1 所在地 京都府天田郡夜久野町大字板生(今西)小字矢谷
- 2 調査期間 一九七三年(昭48)四月
- 3 発掘機関 (表面採集)
- 4 調査担当者 安橋富男(発見者)
- 5 遺跡の種類 不明
- 6 遺跡の年代 不明
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

矢谷遺跡は、板生谷と呼ばれる谷のほぼ最奥部にあり、牧川左岸側の尾根の比較的緩かな傾斜の突端に位置する。地表に口縁部を露



(出 石)

出した陶質の壺の中に、銅鏡一面の表裏を保護するような形で二枚の杉材の円板が重ねられており、この円板から文字が発見された。壺は口縁のつくりから鎌倉時代末頃のものと考えられ、壺を埋めるための施設などはみられず、地山に直接埋